

**COSMETIC**

W 1169-02

**Patent number:** JP10218754  
**Publication date:** 1998-08-18  
**Inventor:** TSUBONE KAZUYUKI  
**Applicant:** KANEBO LTD  
**Classification:**  
**- international:** A61K7/48; A61K7/00  
**- european:**  
**Application number:** JP19970038479 19970205  
**Priority number(s):**

**Abstract of JP10218754**

**PROBLEM TO BE SOLVED:** To obtain a cosmetic containing a specific anion surfactant, powder and/or particulate powder and water, and excellent in touch and skin- moisturizing effect.

**SOLUTION:** This cosmetic contains 0.1-40wt.% of an anionic surfactant containing two acryl group-containing long chains and two polar groups, 0.1-20wt.% of powder and/or particulate powder and 20-80wt.% of water. The surfactant is e.g. N,N'-bis(lauroylamido)ethane-N,N'-di(sulfonic acid sodium salt). The powder and/or particulate powder is e.g. silicon dioxide particulate powder or magnesium silicate aluminate. The essential components are compounded with other components generally used in conventional cosmetics in a total amount of 0-5wt.% based on the whole amount and subsequently prepared into a cleansing cream, cleanser such as liquid face cleanser, body shampoo, shampoo, or make-up remover, cleansing cosmetic, cream, milky lotion, lotion, etc., in a liquid, aerosol, paste or gel-like form.

---

Data supplied from the **esp@cenet** database - Patent Abstracts of Japan

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平10-218754

(43) 公開日 平成10年(1998) 8月18日

(51) Int.Cl.<sup>6</sup>

識別記号

F I

A 6 1 K 7/48  
7/00

A 6 1 K 7/48  
7/00

W

審査請求 未請求 請求項の数 4 F D (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願平9-38479

(22) 出願日 平成9年(1997) 2月5日

(71) 出願人 000000952

鐘紡株式会社

東京都墨田区墨田五丁目17番4号

(72) 発明者 坪根 和幸

神奈川県小田原市寿町5丁目3番28号 鐘  
紡株式会社化粧品研究所内

(54) 【発明の名称】 化粧料

(57) 【要約】

【課題】しっとりしたコクのある感触を有し(塗布時の油性感やべたつき感のない)、保湿効果にすぐれた化粧料を提供すること。

【解決手段】アシル基2長鎖2極性基含有陰イオン界面活性剤と粉体及び/又は微粒子粉体と水とを含有させる。

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 アシル基2長鎖2極性基含有陰イオン界面活性剤と粉体及び／又は微粒子粉体と水を含有せしめたことを特徴とする化粧料。

【請求項2】 アシル基2長鎖2極性基含有陰イオン界面活性剤0.1～40重量％と粉体及び／又は微粒子粉体0.1～20重量％と水を含有せしめたことを特徴とする化粧料。

【請求項3】 微粒子粉体が無機物であることを特徴とする請求項1又は2に記載の化粧料。

【請求項4】 微粒子粉体が有機物であることを特徴とする請求項1又は2に記載の化粧料。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、アシル基2長鎖2極性基含有陰イオン界面活性剤と粉体及び／又は微粒子粉体を含有せしめたことにより感触効果及び皮膚保湿効果を向上させた化粧料に関する。

## 【0002】

【従来の技術】従来からクリーム、乳液等の化粧料には、適用後にしっとりとしたコクのある感触を付与し、しかも十分な皮膚保湿効果を持たせるために各種油製成分やグリセリンなどの保湿剤が比較的多量に配合されていた。しかし、しっとりとしたコクのある感触を強調し、保湿効果を高めようとすると、塗布時の油性感やべたつき感が増し、皮膚への十分な保湿効果と良好な使用感を同時に満足させることは困難であった。

## 【0003】

【発明が解決しようとする課題】本発明者は、このような従来技術の欠点を改良せんとして鋭意研究した結果、特定のアシル基2長鎖2極性基含有陰イオン界面活性剤と粉体及び／又は微粒子粉体を含有せしめると上記の欠点を格段に改良することを見出し、本発明を完成するに至った。

## 【0004】

【課題を解決するための手段】すなわち、本発明の請求項1の発明は、アシル基2長鎖2極性基含有陰イオン界面活性剤と粉体及び／又は微粒子粉体と水を含有せしめたことを特徴とする化粧料である。さらに、本発明の請求項2の発明は、アシル基2長鎖2極性基含有陰イオン界面活性剤0.1～40重量％と粉体及び／又は微粒子粉体0.1～20重量％と水を含有せしめたことを特徴とする化粧料である。

## 【0005】

【発明の実施の形態】次に本発明の実施の形態を説明する。本発明におけるアシル基含有2鎖2極性基含有陰イオン界面活性剤を例示すると、N, N'-ビス〔2-ラウロイルアミン-N, N'-ジ(酢酸ナトリウム)、N, N'-ビス〔2-ミリスチルアミドエチル)エチレンジアミン-N, N'-ジ(酢酸ナトリウム)、N, N'-ビス〔2-パルミトイルアミドエチル)エチレンジアミン-N, N'-ジ(酢酸ナトリウム)、N, N'-ビス〔2-ラウロイルアミドエタン-N, N'-ジ(酢酸ナトリウム)、N, N'-ビス〔ミリスチルアミドエタン-N, N'-ジ(酢酸ナトリウム)、N, N'-ビス〔パルミトイルアミドエタン-N, N'-ジ(酢酸ナトリウム)、N, N'-ビス〔ラウロイルアミドエタン-N, N'-ジ(エタンスルホン酸ナトリウム)、N, N'-ビス〔ミリスチルアミドエタン-N, N'-ジ(エタンスルホン酸ナトリウム)、N, N'-ビス〔パルミトイルアミドエタン-N, N'-ジ(エタンスルホン酸ナトリウム)〕が挙げられる。この化合物の分子構造において疎水基の異なる同族体との混合体としても本発明の目的の範囲内で配合される。ここで、用いる対イオンとしては1価又は2価のアルカリ金属イオン、アンモニウムイオン又は有機アンモニウムイオンが適用される。ただし、有機アンモニウムイオンとしては、リジン、アルギニン等の塩基性アミノ酸も該当する。本発明において好ましい(C)成分としては、アシル基含有長鎖疎水基の炭素原子数が14又は12であって、極性基としてカルボキシル基又はスルホン酸基のいずれかを持ち、連結鎖が炭素原子数が2である化合物が示される。なお、アシル基含有2鎖2極性基含有陰イオン界面活性剤の未中和物も本発明に適用される。アシル基含有2鎖2極性基含有陰イオン界面活性剤の配合量は、0.1～40重量％の範囲が好ましい。0.1重量％以下では、感触効果及び皮膚保湿効果が不十分であり、40重量％以上では、系の粘度が増し、使用性が悪くなることがある。

【0006】本発明における粉体及び／又は微粒子粉体としての無機物としては、無水ケイ酸の微細粉体や、ケイ酸アルミン酸マグネシウム塩等の多孔性粉体を挙げることができる。無水ケイ酸は、通常化粧料に用いられるものであり、本発明には親水性のものが用いられる。

ケイ酸アルミン酸マグネシウム塩は多孔性粉体であり、微細粒子が二次粒子を形成し、高い表面積を持つものである。また、同種のものとして、メタケイ酸アルミン酸マグネシウム・ケイ酸アルミン酸カルシウム等を挙げることができる。また、本発明における粉体及び／又は微粒子粉体としての有機物としては、植物の実（例えば、くるみなど）の皮を粉末状にしたもの、ひのきを粉末状にしたものも挙げられる。さらに、本発明における粉体及び／又は微粒子粉体としての有機物としては、ポリエチレン末、ポリメチルシルセスキオキサン粉末（東芝シリコン社製、トスパール240も挙げられる。ポリエチレン末は通常の化粧料に配合されるものである。ポリメチルシルセスキオキサン粉末は平均粒径2 $\mu$ mの真球状微粒子である。これらのポリメチルシルセスキオキサン粉末をアシル基2長鎖2極性基含有陰イオン界面活性剤と水とともに含有する本発明の化粧料は、塗布時の油性感、べたつきがなく、さらっとした滑らかな感触を有し、しかも皮膚保湿効果に顕著に優れる。これらの粉体及び／又は微粒子粉体は、皮膚洗浄剤に配合すればスクラブ剤としても使用される。本発明の粉体及び／又は微粒子粉体の配合量は、0.1～20重量%の範囲が望ましい。0.1重量%以下では、感触効果及び皮膚保湿効果が不十分であり、20重量%以上では、系の粘度が増

し、使用性が悪くなることがある。尚、本発明の粉体又は微粒子粉体は用途によっては同時に配合することでもできる。本発明には水が20～80重量%の範囲で配合される。

【0007】本発明の化粧料には、これら上記の必須成分の他に化粧料一般に使用される界面活性剤、粉体、水溶性高分子、色素、香料、保湿剤、防腐剤等、さらに消炎剤、ビタミン類、植物エキス、タンパク質、及びその誘導体、もしくは分解物を総量で0～5重量%の範囲でもちいることができる。

【0008】本発明の化粧料は、所望により液状、エアゾール状、ペースト状、ゲル状等種々の剤型にすることができる。本発明の化粧料は、洗顔クリーム、液状洗顔料、ボディシャンプー、シャンプー、メイク落とし洗浄剤、クレンジング化粧料等の皮膚又は頭髮の洗浄を目的とするものを始めとして、クリーム、乳液、ローションなどの通常の化粧料に適用される。

【0009】

【実施例】以下、実施例にて本発明を説明するが、本発明はこの実施例によって限定されない。

【0010】実施例1

（処方例1）

(1) N, N' -ビス（ラウロイルアミド）エタナー	10重量%
N, N' -ジ（スルホン酸ナトリウム）	
(2) ラウリン酸ジエタノールアミド	5
(3) ケイ酸アルミン酸マグネシウム塩（無機系の微粒子粉体）	5
(4) パラオキシ安息香酸メチル	0.1
(5) 精製水	残量

（製法）（1）～（5）を混合加熱溶解する。 （処方例2）

(1) ラウリン酸ジエタノールアミド	5
(2) ケイ酸アルミン酸マグネシウム塩（無機系の微粒子粉体）	5
(3) パラオキシ安息香酸メチル	0.1
(4) 精製水	残量

（製法）（1）～（4）を混合加熱溶解する。 （処方例3）

(1) N, N' -ビス（ラウロイルアミド）エタナー	10
N, N' -ジ（スルホン酸ナトリウム）	
(2) ラウリン酸ジエタノールアミド	5
(3) パラオキシ安息香酸メチル	0.1
(4) 精製水	残量

（製法）（1）～（4）を混合加熱溶解する。 顕著にすぐれていた。

このようにして得られた処方例1の化粧料は、感触効果及び皮膚保湿効果において処方例2、3の化粧料よりも

【0011】実施例2  
（処方例4）

(1) N, N' -ビス（ラウロイルアミド）エタナー	10重量%
N, N' -ジ（プロピオン酸ナトリウム）	
(2) ラウリン酸ジエタノールアミド	5
(3) 真球状ポリメチルシルセスキオキサン粉末（有機系微粒子）	5
(4) パラオキシ安息香酸メチル	0.1
(5) 精製水	残量

（製法）（1）～（5）を混合加熱溶解する。 （処方例5）

(1) ラウリン酸ジエタノールアミド	5
(2) 真球状ポリメチルシルセスキオキサン粉末(有機系微粒子)	5
(3) パラオキシ安息香酸メチル	0.1
(4) 精製水	残量

(製法) (1)～(4)を混合加熱溶解する。(処方例6)

(1) N, N' -ビス(ラウロイルアミド)エタン-N, N' -ジ(スルホン酸ナトリウム)	10重量%
(2) ラウリン酸ジエタノールアミド	5
(3) パラオキシ安息香酸メチル	0.1
(4) 精製水	残量

(製法) (1)～(4)を混合加熱溶解する。

このようにして得られた処方例4の化粧料は、感触効果及び皮膚保湿効果において処方例5、6の化粧料よりも顕著にすぐれていた。

【0012】なお、N, N' -ビス(ラウロイルアミド)エタン-N, N' -ジ(プロピオン酸ナトリウム)の配合量を45重量%配合する他は同様の処方で本願の化粧料を調製したところ、これは、感触効果及び皮膚保湿効果において処方例4の化粧料よりもやや劣った。また、N, N' -ビス(ラウロイルアミド)エタン-N, N' -ジ(プロピオン酸ナトリウム)の配合量を0.05重量%とする他は同様の処方で本願の化粧料を調製したところ、これは、感触効果及び皮膚保湿効果において処方例4の化粧料よりもやや劣ったが本願発明の化粧料としては使用に耐えうるものであった。さらに、真球状

ポリメチルシルセスキオキサン粉末の配合量を25重量%とする他は同様の処方で本願の化粧料を調製したところ、これは、感触効果及び皮膚保湿効果において処方例4の化粧料よりもやや劣った。しかし、これは本願発明の化粧料としては使用に耐えうるものであった。。またさらに真球状ポリメチルシルセスキオキサン粉末の配合量を0.05%とする他は同様の処方で本願の化粧料を調製したところ、これは、感触効果及び皮膚保湿効果において処方例4の化粧料よりもやや劣ったが本願発明の化粧料としては使用に耐えうるものであった。。

【0013】

【発明の効果】以上の記載の通り、本発明は、感触効果及び皮膚保湿効果を向上させた化粧料を提供することは明らかである。